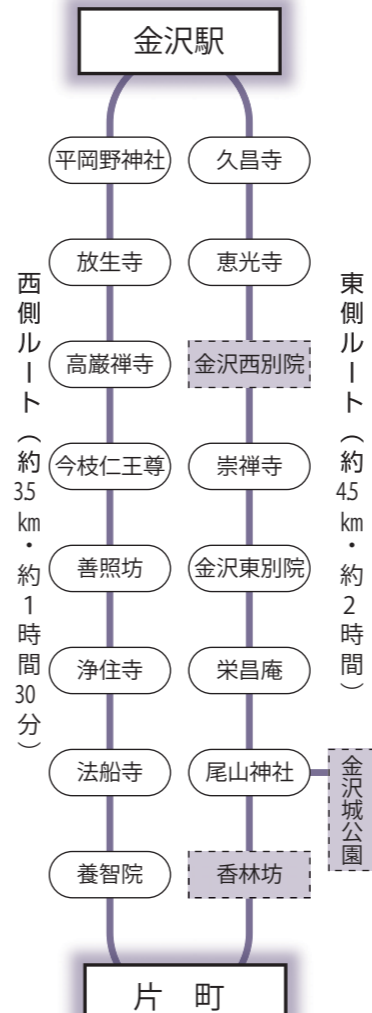
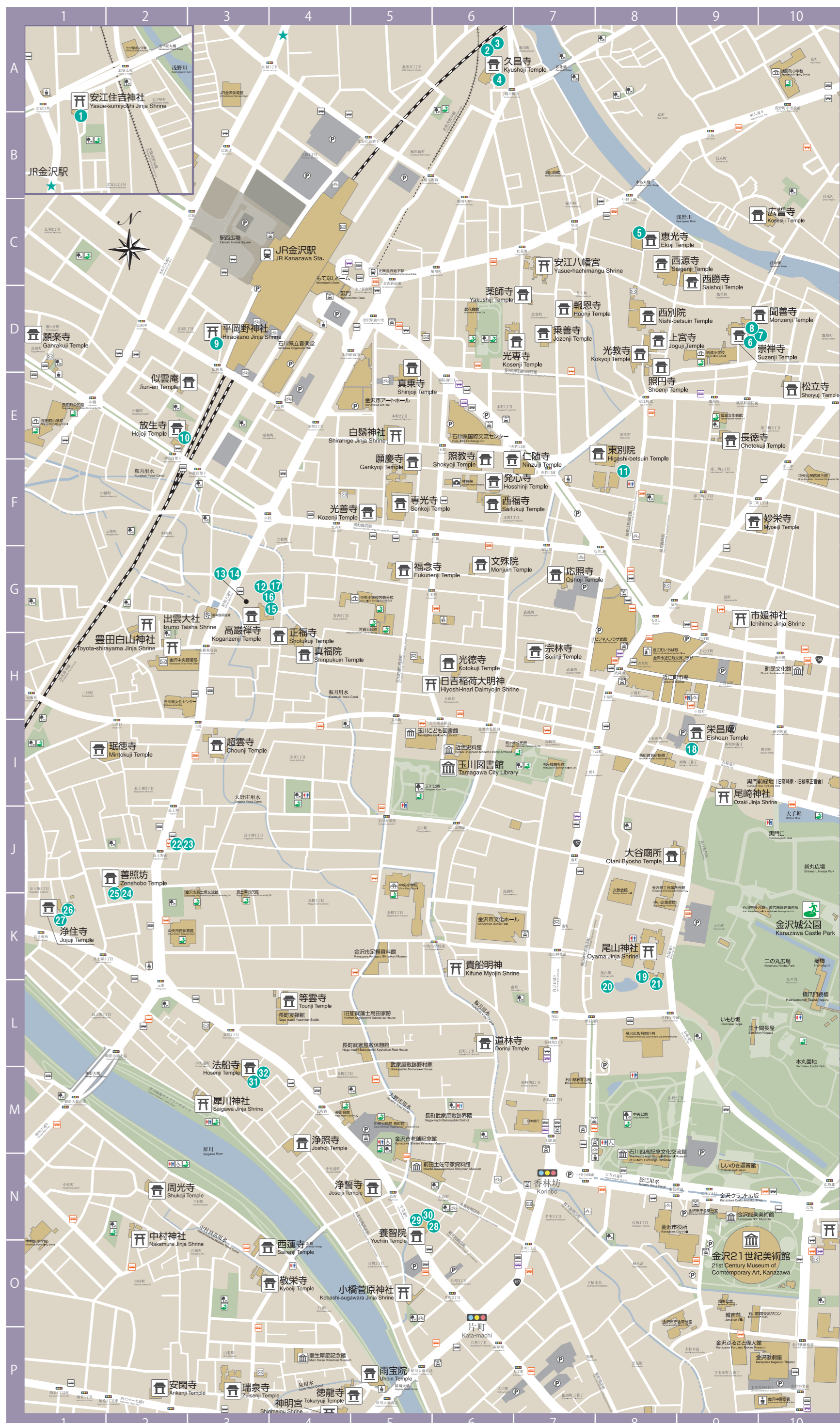






※墓所は故人が永遠の眠りについてる場所です。静かに参拝しましょう。

Table with 3 columns: No, 名称, 所在. Lists 32 numbered items including 御神燈, 橘勝国の墓, 辻村兼若の墓, etc.



【散策ルートのご案内】

六地藏尊 (Rokudoji) - Location: 久昌寺, Type: 石仏, Height: 200cm~223cm.

辻村兼若の墓 (Tsujimura Kanayasu no Haka) - Location: 久昌寺, Type: 方柱型, Height: 193cm.

橘勝国の墓 (Tachibana Katsunokuni no Haka) - Location: 久昌寺, Type: 唐風附位牌型, Height: 223cm.

御神燈 (Mikoshiandon) - Location: 安江住吉神社, Type: 燈籠, Height: 232cm.

山門をくぐり、左手に地藏堂あり。文化3年(1806年)浅野川大洪水により埋まるまで堤防として加賀新刀を確立し、作「加賀正宗」と称された。代表作は元和7年(1621)の刀「越中守藤原高平」(県指定文化財)がある。

初代は美濃国関出身。二代目は慶長10年(1605)、二代藩主利長に招かれた。刃文の名工(1661)、橘勝国と改名。刀には威厳もあり三本村の刃文を得意とし、辻村兼若と共に加賀新刀の双璧と讃えられた。勝国の名は明治13年まで世襲された。

墓塔の銘文は風化により判読できない。加賀刀工の二代陀羅尼家重の子で、寛文元年(1661)、橘勝国と改名。刀には威厳もあり三本村の刃文を得意とし、辻村兼若と共に加賀新刀の双璧と讃えられた。勝国の名は明治13年まで世襲された。

境内中央にある参道の両脇に天明2年と文化2年(1805)に奉納された2対の燈籠と、1対の狛犬がある。大坂の北前船の船主が航海の安全と感謝を願い奉納した。当社は大阪の住吉大社と関係がある。

ねまり牛 (Nemari Ushi) - Location: 崇徳寺, Type: 臥牛像, Height: 55cm.

地藏堂 (Jizōdo) - Location: 崇徳寺, Type: 石仏, Height: 198cm.

開運燈籠 (Kaiun Tōrō) - Location: 崇徳寺, Type: 燈籠, Height: 460cm.

常夜燈 (Jōyōtō) - Location: 恵光寺, Type: 燈籠, Height: 330cm.

安政5年7月の「泣き一投」後、藩主前田家と関わりが深い当寺に天神様の使者とされる臥牛像を寄進。像は見事な彫技法により立体感あふれる。台座正面には梅鉢紋を中心に京三度の綿津屋政右衛門のほか複数の寄進者名を刻む。

藩政期から奉獻された地藏尊など9体を納めた祠堂。中央に合祀された釈迦如来坐像を鏡し、右奥には右手に真鍮製錫杖、左手に宝珠を持つ地藏尊は庶民の崇拜を集めたという。左奥の地藏尊の向背頂部に梵字があるが不詳明。

ねまり牛4頭が支える燈籠に「開運塔」の文字を刻み、「梅の枝」を彫刻。台座に綿津屋政右衛門など寄進者223人の銘を刻む。法華経7万字を一字一石経とし埋納したと伝わる。かつて本塔は浅野川に航行する船から眺められた。

山門をくぐり、右手にある常夜燈。奉納は加賀藩お抱え絵師岸井家によるもの。右面に4名の法名。左面に「文政十一年五月」と年号を刻む。岸井静斎は藩の歩士で、絵を森西園に学び、後に岸駒・大雅の画風を好んで描いた。

生駒直勝の墓 (Ikoma Naokatsu no Haka) - Location: 高蔵寺, Type: 墓塔, Height: 77cm.

手水鉢 (Tsuibishō) - Location: 金沢東別院, Type: 手水鉢, Height: 130cm.

身替り地藏尊 (Mikawari Jizō) - Location: 放生寺, Type: 石仏, Height: 125cm.

石祠 (Ishidaira) - Location: 平岡野神社, Type: 石祠, Height: 60cm.

生駒家開祖。直勝7歳の時、織田信長に仕え、生駒姓を名乗る。後に二代藩主利長に仕え、禄5,000石を賜る。二代藩主利常の命で芳春院に侍し、慶長19年江戸で没す。享年51。墓塔は小祠堂中に直勝夫妻の小振りの五輪塔を安置。

市内の手水鉢では最大級のものである。右側面に「嘉永五子歳三月寄進」「尸室石切墓口」/越中屋与二石口/石屋大兵衛」の銘を刻む。3名の石工職人の顔が真黒に変化した、娘の身替わりとなったという。

天和2年に当寺の住職が彫ったものといへ。加賀八家前田土佐守が奉信していたが、息女が天然痘になり、地藏尊に治療を祈願したところ、地藏の顔が真黒に変化した、娘の身替わりとなったという。その根方に二体小地藏あり」と記す。

拝殿前の二つの石祠中に各1体の小石仏(種類不明)あり。祠右側に「嘉永二己酉八月造之」と奉納年月を刻む。「社記古蹟」に「宝永参年参月、広岡の神木は木曾義仲陣所の松と称する」。その根方に二体小地藏あり」と記す。

今枝仁王尊 (Imabara Ninō) - Location: 長土堀一丁目, Type: 石佛, Height: 155cm.

松平康正の碑 (Matsudaira Yasumasa no Ishi) - Location: 尾山神社, Type: 石碑, Height: 200cm.

長家上屋敷の層塔 (Nagaya Ue-ukushi no Hōtō) - Location: 尾山神社, Type: 層塔, Height: 310cm.

四代藩主墓燈籠群 (Yōdai Hanjū no Hōtōgun) - Location: 尾山神社, Type: 燈籠, Height: 230cm.

出世地藏尊 (Shūsei Jizō) - Location: 栄昌庵, Type: 石佛, Height: 100cm.

浅香三郷の墓 (Asakagisanokuni no Haka) - Location: 高蔵寺, Type: 墓塔, Height: 212cm.

青木芳斎の墓 (Aoki Yoshisai no Haka) - Location: 高蔵寺, Type: 墓塔, Height: 100cm.

一柳監物の遺髪塔 (Ichirō Kanmotsu no Iwibōtō) - Location: 高蔵寺, Type: 墓塔, Height: 114cm.

生駒重信の墓 (Ikoma Shigenobu no Haka) - Location: 高蔵寺, Type: 墓塔, Height: 114cm.

生駒直方の墓 (Ikema Naokata no Haka) - Location: 高蔵寺, Type: 墓塔, Height: 114cm.

元治元年(1864)「禁門の変」で、加賀藩専王攘夷派は十三代藩主斉泰の世子前田慶章を擁し上洛。長州藩が敗退したため同侯は無断帰国し、その責めを負い家老松平康正は近江の海津にて切腹。明治維新後、名誉回復されたため建立。

元治元年(1864)「禁門の変」で、加賀藩専王攘夷派は十三代藩主斉泰の世子前田慶章を擁し上洛。長州藩が敗退したため同侯は無断帰国し、その責めを負い家老松平康正は近江の海津にて切腹。明治維新後、名誉回復されたため建立。

もと天徳院前田家墓所の四代藩主光高墓の墓に建てられた。昭和27年に墓地を野田山に移された際、2基を尾山神社へ寄進したもので、摂社金谷神社前にあり、他に天徳院境内に17基移設されている。

藩政時代に加賀八家長家上屋敷にあったとされる塔。明治時代に屋敷廃絶以降に尾山神社に移された。2基を尾山神社へ寄進したもので、摂社金谷神社前にあり、他に天徳院境内に17基移設されている。

当寺は享保15年(1730)に祇陀寺第十九代眼若が開祖大智報恩のため創建。大正4年六斗林山に移された際、地蔵は天明8年に信州で造られた。当初お堂は小さかったが、平成19年についで、派手な装束を身につけたことと評判となった。墓塔は六重の笠をもつ層塔。

浅香家は紀伊国(和歌山県)の出身。初代当主佐々木三郎は蒲生氏郷に仕えた後、慶長19年(1614)三代藩主利常に禄3,750石で仕えた。馬廻頭をつとめ、派手な装束を身につけたことと評判となった。墓塔は六重の笠をもつ層塔。

天正初期より幾多の武将に仕え、大坂の両役では松平忠直に従い功を立てる。後に剃髪し阿房斎と称す。元和9年(1623)三代藩主利常より禄5,000石を賜り、晩年は芳齋と号した。芳齋町名の由来となる。享年72。

1619~1697。伊予国西條藩主(25,000石)。寛文5年(1665)罪を得て改易。加賀藩お預けとなる。五代藩主綱紀は扶持を与え、優遇した。後に幕府へ助命嘆願し、享年3年(1686)に許された。享年78。塔は三つの笠と軸部からなる。

1654~1719。普請奉行、先簡頭などを歴任。俳諧を好み「万子」と号す。芭蕉に師事した。その花の句を編纂する。墓塔横に句碑「蓮の中はひそかに巻葉かな」がある。享年66。

父直義の没後禄4,500石を受け継ぐ。火消し役となり、元禄7年没。直方の室は三代藩主利常の側室であった五条局で、慶安3年(1650)、命により懐妊のまま直方に嫁し、同年12月利常第8息女龍姫を出産。

義賢名号塔 (Gishien Naikōtō) - Location: 法船寺, Type: 名号塔, Height: 245cm.

義猫塚 (Gishōzuka) - Location: 法船寺, Type: 墓塔, Height: 161cm.

富永家の墓所 (Tomonaga no Haka) - Location: 養智院, Type: 墓塔, Height: 133cm.

鬼川延命地藏尊 (Onikawa Ninmyō Jizō) - Location: 養智院, Type: 石佛, Height: 120cm.

凡兆の墓 (Bonshō no Haka) - Location: 養智院, Type: 墓塔, Height: 55cm.

小塚秀正の墓 (Kozuka Hidenobu no Haka) - Location: 浄住寺, Type: 墓塔, Height: 161cm.

荒木家の墓所 (Araki no Haka) - Location: 浄住寺, Type: 墓塔, Height: 236cm.

千木野屋の墓 (Chikimoriya no Haka) - Location: 善照坊, Type: 墓石, Height: 128cm.

川北家の墓所 (Kawanokabe no Haka) - Location: 善照坊, Type: 墓石, Height: 38cm.

室鳩巢の石柱 (Murogusa no Ishibayashi) - Location: 長土堀一丁目, Type: 標石, Height: 92cm.

山門の左手に石垣積み基礎の上に名号塔が建つ。正面は方柱形に一段彫り下げ、リズムミカルな書風の「南無阿弥陀佛」と花押を刻む。江戸後期に活躍した捨世派僧の念仏行者「義賢」の揮毫。義賢は貴族を問わず信仰を集めた。享年54。

「法船寺のねずみ退治」という昔話に関連する石塔。この伝承は享保年間(1716~1736)、法船寺に買われた猫と助っ人の猫が自らの命を賭してけ鼠を退治した話である。代々の住職が「義猫塚」として手厚く祀った。

富永家のもと小田原北条家の家臣といわれ、初代当主は二代藩主利長に禄2,000石で仕えた。当家は鬼と因縁深く、代々鬼を祀った。天正年間に富永佐太郎が大野庄用水開削の任にあたり、この用水を「鬼川」と称したと伝わる。

天正年間(1573~1591)大野庄用水(鬼川)開削の際、土中より発見された地蔵。この時の改作奉行的富永佐太郎が当院に寄進した。地蔵には大同2年(807)と記されていることが寺に伝わる。

初代小塚家当主の淡路秀正(9,000石)は藩祖利家の荒子以来の家臣。二代藩主利長の時に高岡へ従い、三代藩主利常の大坂冬の陣に従い、夏の戦死。その後、弟が家督を継ぎ、明治まで家系は続いた。墓は藩政期にまとめたもの。

金沢の生まれ。京都に上り医者を目指す。妻と同時に芭蕉に入門。向井往来と共に編纂した俳句選集「猿蓑」は有名で、代々鬼を祀った。天正年間に富永佐太郎が大野庄用水開削の任にあたり、この用水を「鬼川」と称したと伝わる。

荒木家初代当主善太夫は、父が摂津守村重といわれる。天正19年(1591)藩祖利家の千石を拝領。越中城端城主として、武蔵八王子城攻めが続く商人の墓は珍しい。

商人の墓。藩政時代から北国街道沿いの高岡町に広い屋敷を構え、植木を商う。天正19年(1591)藩祖利家の千石を拝領。越中城端城主として、武蔵八王子城攻めが続く商人の墓は珍しい。

川北家五代目は借善照坊に付き従い北国に下り、僧となる。七代目の時、木町で木綿を明治時代以降に変わったが、真宗系寺院で藩政時代から続く商人の墓は珍しい。

儒学者室鳩巢は五代藩主綱紀に金沢へ招かれ、長町六番丁に21年間居住した。仁王尊の堂威にうたれ、堂宇入口に石柱を立て「此處靈驗仁王在」と彫り、標識とした。室鳩巢は後に幕府の儒官、更に八代将軍吉宗の侍講となる。

中心市街地石造物マップ

石が語る金沢の歴史と文化



今枝仁王尊



伊句扁額 (橋原天満宮)

2015.3発行

協働のまちづくり チャレンジ事業 (金沢市委託事業) - 金沢市 金沢文化財ボランティアあめばちの会



開運燈籠 (崇徳寺)



横向き地蔵 (真行寺)



吉田長頭の墓碑 (楳嶺寺)



本書は金沢城・兼六園及び寺町・卯辰山麓地区を除く中心市街地内にある石造物の中から藩政期に由来する76点を選択して紹介したものである。石造物の配列は金沢城を境に東側と西側に分けて掲載している。寺社の境内や墓地、路傍に残されている石塔・燈籠・墓碑・地蔵などの石造物から金沢の歴史と文化を学習する一助になれば幸いである。

2015.3発行

金沢城西側エリアは城下町の中心部であり、その周辺に寺院が分布する。ここでは32点の石造物を紹介するが、墓塔類が最も多く、次いで石仏・燈籠類がある。

塔には武家、職人、文芸関係など多様な人物が寺院に埋葬されている。武家では千石を超える上級階級の⑩~⑭生駒家、⑯青木家、⑰浅香家、⑱荒木家、⑳小塚家、㉑富永

生駒直方の墓 (Ikema Naokata no Haka) - Location: 高蔵寺, Type: 墓塔, Height: 114cm.

父直義の没後禄4,500石を受け継ぐ。火消し役となり、元禄7年没。直方の室は三代藩主利常の側室であった五条局で、慶安3年(1650)、命により懐妊のまま直方に嫁し、同年12月利常第8息女龍姫を出産。

室鳩巢の石柱 (Murogusa no Ishibayashi) - Location: 長土堀一丁目, Type: 標石, Height: 92cm.

儒学者室鳩巢は五代藩主綱紀に金沢へ招かれ、長町六番丁に21年間居住した。仁王尊の堂威にうたれ、堂宇入口に石柱を立て「此處靈驗仁王在」と彫り、標識とした。室鳩巢は後に幕府の儒官、更に八代将軍吉宗の侍講となる。